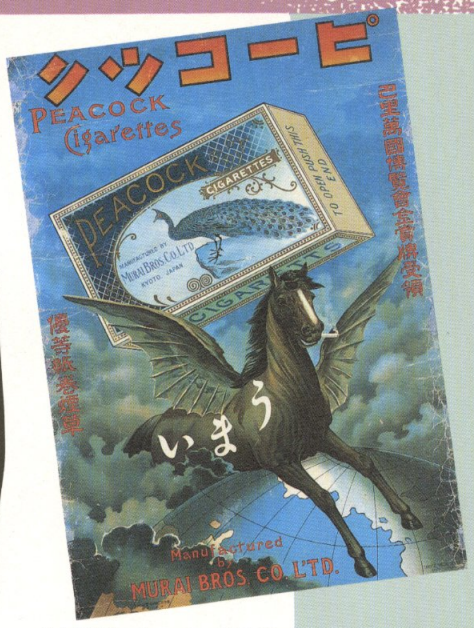
日本の版画 I 1902-1910 版のかたち百相

落合芳幾　『歌舞伎座筋書』第63号表紙　1902年　木版　個人蔵



伏木英九郎〈ピーコック〉　1902年頃　石版　たばこと塩の博物館蔵

1997年9月9日(火)→10月12日(日)

休館日＝月曜日［ただし9月15日(月・祝)開館／翌16日(火)休館］

開館時間＝午前10時→午後6時（入場は午後5時30分まで）

［ただし金曜日は午前10時→午後8時（入場は午後7時30分まで）］

入場料＝一般800円(640円)／大学・高校生560円(450円)／中・小学生240円(200円)

＊( )内は団体30名以上および前売り料金

ハローダイヤル＝043-227-8600

和田英作　『明星』午歳1号より欄画〈馬〉　1906年　木版　文学堂書店蔵

竹久夢二　『夢二画集 旅の巻』カバー　1910年　平版　龍星閣蔵

山本鼎〈漁夫〉　1904年　木版　千葉市美術館蔵

橋口五葉　夏目漱石『漾虚集』中扉〈琴のそら音〉　1908年　木版　山田俊幸氏蔵

［同時開催］関係――河口龍夫

9月9日(火)→10月19日(日)　＊別料金となりますが、両方ご覧になる場合割引があります。

千葉市美術館

〒260 千葉市中央区中央3-10-8　Tel. 043-221-2311

主催＝千葉市美術館／東京新聞

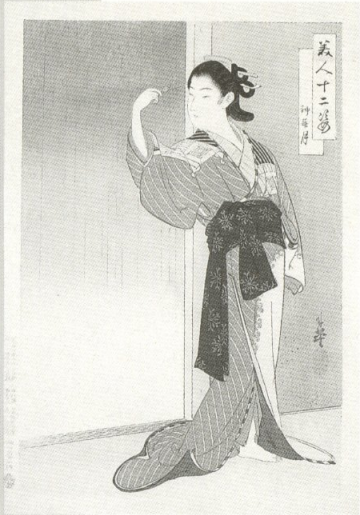
後援＝日本浮世絵協会

日本の版画 I 1900-1910 版のかたち百相

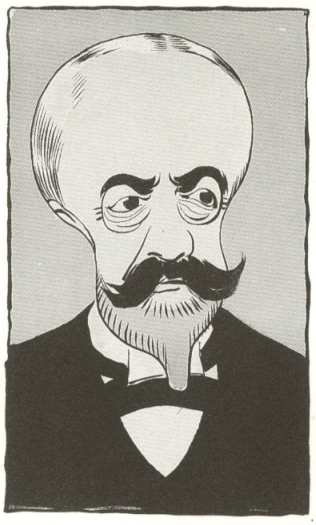
あらためて浮世絵の例をだすまでもなく、日本において版による表現は、ひとの感興や祈りや空想を形にしながら、長く深い時を刻んできました。はじめ木を削り、文字を転写するだけであった版は、時代がくだるにつれて技法も用途も造形もさまざまに分化して今に至っています。

この展覧会は、1900年から1910年までというわずかな時間を長大な日本の版画史から抜き出し、浮き彫りにしようとするものです。明治で言うと33年から43年にあたるこの時期、印刷術の急速な進歩を背景に、版のうえではきわめて興味深い様相が展開していました。浮世絵系の絵師たちが小説口絵に腕を競い、日露戦況を伝える錦絵が報道手段たる最後のつとめを果たす一方で、若き竹久夢二が流行作家としての歩みを始め、また山本鼎が版画ならではの「表現性」開拓へと乗り出す－。新しいものと古いもの、和的なものと洋的なもの、複数性とオリジナリティーとが渾然となった、このような版をめぐる状況は、まさに「百相」というにふさわしいものです。

250余点を「浮世絵版画の流れ」「石版画における展開」「より新しく自由な造形へ」「版技巧の多様化」「表現へと向かう版画」「デザインと版画」の六部構成で展観いたします。わずか十年余りの間に繰り広げられた、多様な「版のかたち」をご覧下さい。

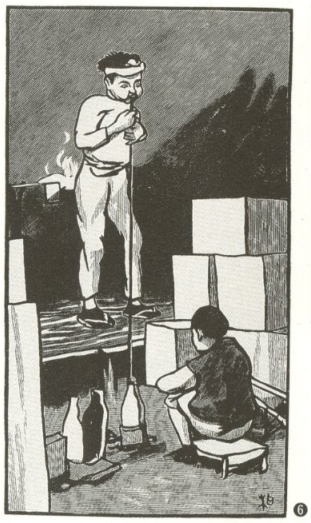

❶

❷


❸

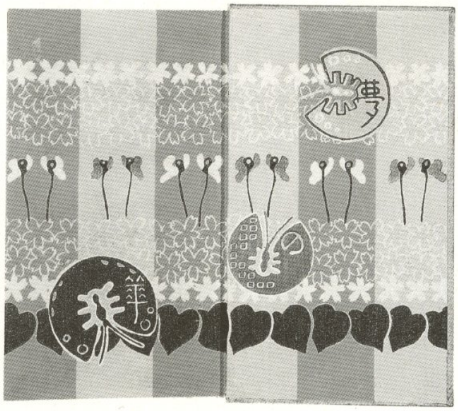
❹

❺


❻

❼

❽



❾

❶ 右田年英〈美人十二姿 神無月〉 1901年
木版 個人蔵

❷ 山本昇雲〈いますがた 御案内〉 1907年
木版 千葉市美術館蔵

❸ 鹿子木孟郎『時事漫画非美術画報』巻之一より
1904年 石版 川崎市市民ミュージアム蔵

❹ 藤島武二 与謝野晶子『小扇』表紙 1905年
木版 文学堂書店蔵

❺ 中沢弘光 『明星』巳歳1号より 〈巳の初春〉 1905年
木版 文学堂書店蔵

❻ 石井柏亭（彫：山本鼎） 北原白秋『邪宗門』より
〈硝子吹く家〉 1909年 木口木版 千葉市美術館蔵

❼ 石井柏亭（彫：山本鼎） 北原白秋『邪宗門』より
「魔睡」扉絵

❽ 石井柏亭（彫：山本鼎） 北原白秋『邪宗門』より
「朱の伴奏」扉絵

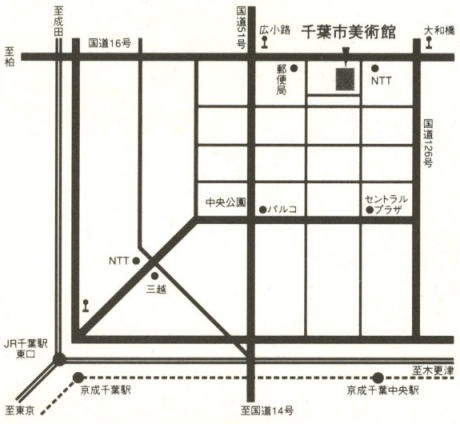
❾ 杉浦非水 与謝野晶子『夢之華』見返し 1906年
木版 神奈川近代文学館蔵

［ギャラリートーク］ 会期中毎週土曜日の午後2時より(計5回)
7階展示室前にて受付

《次回予告》 粋人たちの贈り物……江戸の摺物展
10月21日(火)→11月24日(月祝)
アメリカン・ストーリー 11月1日(土)→12月23日(火祝)

［交通案内］
■ JR総武線千葉駅東口より徒歩15分
■ JR千葉駅前から⊙京成バス大学病院行（のりば⑦）「大和橋」下車 ⊙京成バス矢作台市営住宅・川戸行（のりば⑦）または小湊バス八幡宿駅行（のりば④）「広小路」下車 ⊙無料巡回シャトルバス「チーバス」（のりば⑲）「中央区役所・美術館前」下車（午前11時→午後6時の毎時05分と35分に出発・水曜日運休）
■ 京成千葉中央駅東口より徒歩10分

＊なお来館者用駐車場は少ないので、自家用車での来館はご遠慮ください。



千葉市美術館 〒260 千葉市中央区中央3-10-8
Tel. 043-221-2311